

スマホアプリを活用したバリアフリー情報の収集・発信事業 Bmaps

誰もが安心して外出できる社会へ。

- ・ 2016年4月、日本財団は、東京2020パラリンピック競技大会のレガシーとして、誰もが安心して移動、外出することができる社会作りを目指し、車椅子利用者やベビーカー利用者など多様なユーザーが求める情報を発信するバリアフリー地図アプリ Bmaps を（株）ミライロと共同開発し、バリアフリー情報の投稿よびかけを開始しました。
- ・ CANPAN センターは IT と情報でアグレッシブに公益活動を行う団体のサポートを実施してきており、2016年12月に日本財団より Bmaps を譲り受けました。そして2016年度日本財団助成事業としてスマホアプリを活用したバリアフリー情報の収集・発信事業を協働パートナーの（株）ミライロとともに行なっています。
- ・ Bmaps はみんなでつくるバリアフリーマップアプリです。アプリですので外出先での急な検索も安心。出かけた先でも目的に併せて、ジャンル別にお店や施設のバリア情報を検索することができます。
Bmaps は、多様なユーザーがその視点や感性を生かして街中のバリアや設備に関する情報を収集、発信するツールです。これまでの情報サイトでは集めることのできなかつた、店舗や施設におけるバリアフリー情報を共有することができます。
また、発信するのもアプリのユーザーなので、利用者目線でニーズの高い情報を各地に向けて発信、収集することができます。
- ・ Bmaps アプリは車いすユーザーが生活する上で抱える課題をもとに生まれました。「車いすで気楽に行けるお店がみつからない」「自分に近い身体状況の人々と情報を共有したい」という声です。例えば、「段差ひとつ」の有無で車いすのユーザーはそのお店を利用することが難しくなってしまいます。街にあふれるこれらの問題は、車いすユーザーと段差という問題だけではありません。ベビーカーを利用する小さなお子様連れのお父さんやお母さん、ほじょ犬とともに生活を送る人々など、お店や施設を利用するのに際してバリアフリー情報の不足に不安を抱えて過ごしている方々が数多くいらっしゃいます。
- ・ Bmaps の使命は、これらのユーザーが求める情報を収集し、発信することです。多様な視点から街中のバリアをチェックします。外出に不安を抱える方々や彼らの支援者の方々が情報を収集、発信していくことで、これまで集めることのむずかかった情報が蓄積されていきます。これにより日本中のバリアフリー情報を共有することができる場が生まれます。



- ・ Bmaps が対象とするサービスは、飲食店や宿泊施設を中心にショップやホテル、観光地などで各種バリアフリー情報を収集することです。モバイル端末での利用を中心として、パソコンなどウェブでの利用も可能となっています。
- ・ Bmaps から得られる情報の例：
 - ◇ 入口の段差の数：1 段以下であれば車いすユーザー単独で入店が可能
 - ◇ アクセス面を支える設備：一般駐車場/優先駐車場/エレベーター/貸し出し車いす
 - ◇ 安心して利用できるトイレ環境：車いす対応トイレ/オストメイト対応トイレ
 - ◇ パパ・ママにうれしい設備：授乳室/貸し出しベビーカー
 - ◇ 様々な人々が安心して利用できる：ほじょ犬対応/ユニバーサルマナー
 - ◇ その他の便利な設備：コンセント/禁煙・分煙スペース/公衆 Wi-Fi
- ・ Bmaps のバリアフリーマップに表示されるスポット数は 2017 年 3 月末現在 5 万スポットを越えて急増中（2016 年 9 月末で 3 万スポット）。利便性がこれからもどんどん増して行きます。

(株) ミライロとの協働

Bmaps は、ユニバーサルマナー、ユニバーサルデザインの普及を通じ、バリアバリューの社会の実現を目指す若い企業 (株) ミライロ（本社大阪市、垣内俊哉社長）との協働で進められてきています。そして Bmaps のシステムの開発、管理、運用から広報活動によるスポット数の拡大まで (株) ミライロとの協働で活動しています。

私の行けたが
明日の誰かの
地図になる。

誰もが安心して外出できる社会へ。

Bmaps

Facebook登録/ログイン
Twitter登録/ログイン
Webアドレス登録/ログイン
アドレスで検索

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION × MIRAIRO

<https://bmaps.world/jp>